

## 平成28年度 県立水海道第一高等学校 自己評価表

<b>目指す学校像</b>	<p>「至誠」「剛健」「快活」の学校づくりを積極的に推進する。</p> <p>社会人として求められる確かな学力や人間性を身につけさせるとともに、自己の将来を見つめた職業観・勤労観に基づく進路実現を支援し、各界のリーダーたらんとする人材の育成に努める。</p> <p>1 生徒・教職員、共に学び続ける学校  2 生徒・教職員の信頼関係が構築された学校  3 懇切・丁寧な指導・きめ細かな指導を実践する学校  4 一人ひとりの個性に応じた多様な進路実現がはかれる学校</p>		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>○「校内相互授業観察」や「アクティブラーニング研修」などを通し、授業改善と指導技術の向上を図ってきた。少人数指導や課外指導などで学習指導の充実を目指しているが、難関大学の受験に対応できる学力を生徒に身に付けさせることが課題である。</p> <p>○自学自習を奨励し生徒全員の家庭学習時間「年次+2時間」を図っているが、まだまだ不十分であり家庭学習を習慣化させたい。</p>	<b>学習指導の充実</b>	① 生徒一人ひとりが自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、みなと協働して問題をより良く解決しようとする能力を育成する。	B
		② 「授業第一」を徹底し、学ぶ楽しさ、喜びを実感できる授業を展開する。そのために少人数指導や習熟度別指導などきめ細かな指導を徹底する。さらに言語活動を充実させ、教科・科目等の枠を超えた横断的・総合的な探求活動の質的な充実を図る。	B
		③ 教材研究、相互授業参観、先進校視察、授業研修等を通して「学び続ける教員」として強い自覚を持ち、常に指導法の改善を実践し生徒の学習意欲を高める「授業力の向上」に努める。さらに学習の深化をもたらす評価や考査問題等の研究に努める。	B
		④ 家庭学習時間の確実な確保(年次数+2時間)を徹底するとともに、学校での自習スペースや教室での居残り学習等を奨励することで、互いに切磋琢磨する環境を作る。さらに生徒一人ひとりの希望と適性に応じた主体的な学びを支援する手立てを講じる。	C
<p>○教科指導、キャリアカウンセリング、キャリアガイダンス、各種講演会など実施し、キャリア教育を充実させることで、多くの生徒の進路意識が向上し、将来設計ができるようになってきた。自ら高い希望にチャレンジできるような生徒の育成を目指したい。</p>	<b>キャリア教育の推進</b>	⑤ 教科指導、キャリアガイダンス等系統的・組織的なキャリア教育を実践し、生徒一人ひとりが将来に対して明確な動機付けができるように努める。	B
		⑥ 個々の生徒の進路希望、学力の推移及び今後の発展性等を常に把握しながら、最後まで高い目標に挑戦する態度を育成し、進路決定率90%以上を達成する。今年度は国公立大学80名以上、難関私立大学20名以上の合格を目指す。	B
<p>○生活面では、二人担任制による利点を生かし個別面談を充実させ、生徒に寄り添ったきめ細やかな指導ができた。遅刻者数が減少したものの欠席者数は増加しており、生徒の生活習慣と共に、メンタルヘルスにも注意していくことが必要である。</p>	<b>心の教育の推進</b>	⑦ 「道徳」や総合的な時間を通して、人間として在り方・生き方の教育を推進し、自らを律しつつ、友人と協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性を育む。	B
		⑧ きめ細やかな面談指導を通して生徒理解に努めるとともに教員と生徒の信頼関係の構築を図る。スクールカウンセラーとの連携を密にし、心的に問題を抱える生徒に対する支援の充実を図る。	A
<p>○生徒会活動や部活動は活発である。生徒の高校生活を充実させるために、自主的・実践的なさらなる活動を推し進めたい。</p>	<b>健やかな身体を育む教育の推進</b>	⑨ 部活動やホームルーム活動、学校行事を通して、たくましく生きるための健康や体力を育むとともにより良い人間関係を構築する。生徒会活動や部活への積極的な参加を促し、部活動加入率80%以上を達成し、高いレベルでの学業と部活動の両立を目指す。	A
	<b>地域との連携の推進</b>	⑩ 学校説明会、ホームページやスクールガイド、「泰山木」等を通して情報を積極的に発信して「開かれた学校づくり」に努めることで、保護者、卒業生や地域社会との連携強化を図る。	A

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導		生徒に自学自習を求める指導の工夫に努める。	自主研修や相互授業参観を通して、生徒の興味・関心を高める指導方法や授業内容についての工夫・改善を図る。さらに生徒の目標実現を支援する教育課程の編成を研究する。 ①②③	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の主体的・協働的な学習を促すような授業改善。</li> <li>・新テストを視野に入れた教育課程の編成。</li> <li>・ICTの有効活用についてその効果の検証。</li> <li>・思考力・判断力・表現力を育成するための、教員の学力観の転換。</li> </ul>
			授業時の観察、考查結果の分析、日々の面談活動を通して、基礎的・基本的な学力の定着の程度と家庭学習の状況を把握し、自学自習を支援して応用力の育成を図る。 ①②③	B		
科	国語	国語を適切に理解し、表現する能力を育成する授業を実践する。	観点別学習状況評価を充実させ、学習意欲と確かな学力の向上を図る。 ①②③④	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲と確かな学力の向上</li> <li>・能動的学習を導く授業づくり</li> <li>・知識を活用する力の育成</li> </ul>
			授業形態を工夫し、生徒の能動的な活動を促す場面の設定を行う。 ①②③	B		
			既習教材の要約を通じて、文章構成を意識して評論文を読解する力を養う。 ①②	A		
			問題演習を行い、文法や単語の知識を解釈に活用する力を養う。 ①②	B		
	地歴公民	アクティブラーニングを取り入れた指導の実践を図る。	視聴覚教材を積極的に活用し、教員と生徒の双方向的な学習指導の実践を図る。 ①②③	B	B	アクティブラーニングの展開をすすめる。教員間で授業研修を行う。
			過去の入試問題を活用し、課外活動を充実させ、応用力を高める。 ①②③	A		
	数学	基礎力の向上に努める。	習熟度別少人数指導やTTにより、学習意欲を喚起し、基礎力の養成を徹底する。 ①②③	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上位層の人数を増やすために取るべき手段を年間を通して実施</li> <li>・下位層の集団を作らないための単元ごとの補習や課外の継続的な実施</li> </ul>
			教科内で教科・指導法等について研究協議する。年間の指導計画に基づいて、週末課題や小テストを実施し、基礎力の定着を図る。 ①②④	B		
		上位層の育成を図る。	習熟度別少人数指導と平日課外、土曜課外、個別指導等を活用し、応用力の養成に努める。1年次と2年次で、「数学研究会」を実施し、数学に興味を持つ上位生徒の自発的学習への動機付けを図り、定着を向上させる。 ①③⑤	B		
	理科	普段からの学習定着度の把握と起伏有る授業展開を実践する。	「分かる喜びを実感する授業」改善のため、普段から小テストや提出物等を行い、学習内容の定着度や理解度の把握を行う。 ①②	B	B	・担当教師間の指導法の研修
			実験やデジタル教材、AL授業の導入など起伏有る授業展開と、その指導研修のための研鑽に務める。 ②③	B		
	英語	SS60以上を増やしつつ、SS50以下の底上げを図る。入試問題の傾向を研究し、指導に役立てる。	日々授業改善を行いながら、適切な教材を提供し、基礎学力、実力を養成する。 ①②③	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎力定着のための具体的な方策を授業と家庭学習の両面で考え、実行に移す。</li> <li>・上位層への個別指導を充実させ刺激を与える。</li> <li>・入試問題の傾向を研究し、指導に役立てる。</li> </ul>
少人数授業や課外授業を活用し、学習意欲と確かな学力の向上を図る。 ③⑤			B			
模試やGTEC受検に向けて、指導の充実を図り、成績向上を目指す。 ③⑤			B			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教	保健 体育	基礎的運動能力, 体力の向上を目指す。	持久走の単元を生かして, 有酸素運動能力の向上を目指す。 ①②	A	A	・女子のボール投げ, 握力が全国平均より低い。特に女子の 上肢の筋力向上が課題。
			体ほぐし及び身体づくりの運動を積極的にとりいれ, 上肢と体幹の筋力の向上を目指す。 ①②	B		
		自ら運動に取り組む習慣を身に付ける。	運動と健康のつながりを理解させるとともに, 選択授業の中で生徒主体の活動を促し, 運動習慣の定着を図る。 ①②	A		
	芸術	芸術の諸能力を伸ばし, 芸術文化についての理解を深め, 生涯にわたり芸術を愛好する心情を養う。	創造的な能力を高める表現や鑑賞の学習課題を工夫し, 生徒の個性を重視した少人数指導により, 個々の生徒の感性を伸ばす。 ①②③	A	A	・芸術鑑賞の時間を確保する。
科	家庭	これからの時代を生きる生徒が希望を持ち, たくましく, よりよく生きる力を身につけることを目指す。	生活する上での様々な課題を主体的に理解させ, 自立して生活できる実践的な態度を養う。 ①②	B	B	・授業で学んだことをより深い学びにするために, 課題やまとめの工夫を行いたい。
			実験・実習を多く取り入れ, 基本的な技術や技能の習得を目指す。 ①②	A		
	情報	情報活用能力の向上を図る。コミュニケーション能力の向上を図る。	実習を多く取り入れ, 情報リテラシー能力やコミュニケーション能力等の情報活用能力を向上させる。パソコン等情報機器に対する操作技術の向上を目指す。 ①②	A	A	・座学で, もっと作業をさせる工夫が必要。
学校運営	進学重視型単位制の効率的展開と業務の改善		多くの教員を活用できるという単位制のメリットを最大限生かすため, 各教員の役割分担を明確にするとともに, 校務分掌間, 年次間, 教科間の連携協力を一層推進していくことで, 業務の軽量化・効率化につなげていく。 ①～⑩	B	B	・校務分掌間, 年次間, 教科間の連携を強め, 情報を共有化し有効に活用する。 ・教職員一人一人が課題意識を持ち, チームとして取り組むことで目標達成を目指す。 ・引き続きWebページの迅速な更新とマスコミを利用した広報活動を通じて積極的に情報を発信していく。 ・計画的な中学校訪問の他, 進学に対しても積極的な訪問を実施する。
			本校の課題を解決するために, マネジメントプロセスを全職員で共有する。 ①～⑩	B		
	開かれた学校づくりの推進	Webページの迅速な更新, マスコミ等を利用した広報活動を通じて積極的に情報を発信し, 本校をPRしていく。学校評価を通じて, 保護者, 地域社会との連携を深めるとともに, 教育活動の改善を進めていく。 ①～⑩	A			
		計画的に中学訪問を実施することで近隣中学校との信頼関係を構築する。学校説明会や学校公開などを通じて教育活動を積極的にPRし, さらなる志願者数の増加に努める。学校行事(亀陵祭・歩く会)ではPTAとの連携協力を進め, 一層の信頼関係を醸成する。 ①～⑩	A			
教務	円滑な教育活動の支援と授業の充実による学力向上	授業交換比率を増加させるとともに, 各部・各年次間の連絡調整を進めることにより, 日常の教育活動が円滑に進むよう支援する。また観点別学習状況評価の趣旨を生かした授業の改善や少人数授業, 習熟度別授業等の成果を検証し学力向上を図る。 ①②③	B	B	・生徒の毎日の授業に向かう姿勢をより真剣なものとし, その時期・その時に実につけるべき知識・技能を着実に習得させるよう考查・評価・授業等を改善する。 ・出席管理等基本的な部分での連絡を的確に行えるよう周知徹底に努める。	
	進学校に適した教育課程の編成と観点別学習状況評価の研究	先進校視察によって単位制進学校に適した教育課程の研究と編成にあたりるとともに, 観点別学習状況評価の手法や内規についての研修を通し, その改善・充実を図る。 ①②③④	B			
	情報機器の安定的な運用及び情報セキュリティの管理を行い円滑な校務運営と積極的な情報発信を行う。	教務支援システムの安定的な運用と不具合への対応を実施する。各年次の情報について積極的にWebページ上での情報提供を行う。 ①②⑩	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
生徒指導	規律正しい生活態度の確立	服装・頭髪指導の徹底と、早朝登校をうながし、自立した生徒を育成する。 ⑦⑧⑨	B	B ・遅刻防止の取り組み、交通事故防止、交通マナー違反の対策
	マナーの向上(交通・挨拶など)	PTA・警察と連携して、通学路の立哨や交通安全教室を通して交通マナーの向上に努める。 ⑦⑧⑨	B	
		朝の登校立哨・あいさつ運動などを通して、マナーを向上とコミュニケーションの充実を図る。 ⑦⑧⑨	B	
進路指導	キャリアを意識した人生プラン、生活プランの設計を促す指導	生徒が自らの進路に対する強い目的意識を持って主体的に「年次+2時間」の学習時間を確保した生活ができるよう、総合的な学習・道徳教育・各種行事等を通して生徒のキャリアプランニング能力を育成する。 ④⑤	B	B ○キャリア教育の更なる推進 ・文理別及び成績層別指導など、生徒の特性にマッチした指導のさらなる充実 ・主体的に家庭学習に取り組む態度の拡張(家庭学習時間:年次+2時間) ・大学グローバル化に呼応した英語指導の調査・研究 ・論理的思考力の育成(特に理数系科目) ○志望大学の合格率の向上 ・生徒のキャリア形成にマッチした第一志望への合格率向上はもちろんのこと、特に、国公立大学、GMARCH以上の合格率の向上 ・進路選択のミスマッチをなくし、最後まで粘り抜く生徒の育成
		二人担任制を生かして継続的・計画的な個人面談を実施するとともに、年次・教科・学校全体など多様な形態で生徒の進路指導に携わることで、生徒のキャリア形成・学力向上に寄与する。 ②③⑤⑥	A	
	生徒一人ひとりが高い目標設定することを前提とした環境整備、学習機会の提供・情報提供に努める	生徒が主体的に学び合い刺激し合うことのできる学習環境の整備につとめるとともに、「進路だより」等を通じて向上心を備えた意欲的な進路選択を促すための情報提供を行う。 ①④⑤	A	
		実践的な学力の向上及び苦手克服からの自信確立のための課外の設定、フィードバック・チャレンジ機能としての適切な模試の設定を行うとともに、これらを利用した進路指導の充実を図る。 ①⑥	B	
進路実現を目指すための学習指導の強化・充実を図る	理数科目の学力向上と指導の充実、および大学グローバル化への対応に力点をおいた学習指導を展開することを目指す。また、小テストや週末課題の効果的設定による基礎学習の定着をはかるとともに、成績上位者の更なる伸長を目指したエキスパートプログラムを展開させる。 ③⑤⑥	B		
特活指導	生徒会・委員会活動の充実	委員会活動の活性化を図り、生徒会・HRの計画や運営に協力しながら、学校づくりに参画する。 ⑦⑧⑨	B	B ・委員会活動の活性化 ・愛校心が深まる活動(校歌指導など) ・自主的、自発的な活動(学校行事など) ・ボランティア参加率の増加 ・部活動加入率の増加 ・学校行事の見直し検討
		ボランティア活動を通して、異年齢集団による交流を深め、地域の社会づくりに参画する。 ⑦⑧⑨	B	
	学校行事への自発的な参加	儀式的、文化的、体育的、奉仕的行事を協力し合い、集団への所属感や連帯感を深める。 ⑦⑧⑨	B	
定期戦・亀陵祭・野球応援を通して、学校の一員として自覚し、愛校心を深める。 ⑦⑧⑨		A		
保健厚生	生徒の健康保持及び増進	熱中症や食中毒及びインフルエンザ等の感染症の予防対策を推進する。 ⑨	A	A 清掃の更なる徹底とゴミの分別、減量化。 エアコンの効率的運用。
		保健室来室者の現状を把握し、保護者・関係職員との連携を図る。 ⑧⑨	A	
		薬物乱用防止講演会や防火防災避難訓練などを通して生徒の安全を図る。 ⑨	A	
	教育環境の整備	清掃の徹底とゴミの分別など環境美化活動を推進する。 ⑦⑨	B	
		エアコンの効率的な運用の徹底を図る。 ⑨	B	
生徒厚生の充実	奨学金事務等の周知及びその処理を円滑に実施する。 ⑤	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
渉外広報	PTAの活性化を図る	PTA総会・支部総会等の出席率をアップさせ、本部役員を中心に会員全体が協力し、充実したPTA活動の実施に努める。 ①～⑩	B	B	※PTA総会・支部総会の出席率アップ ※学校広報誌「泰山木」を継続発行により、生徒・保護者への本校教育活動への更なる啓蒙を行う。 ※必要に応じて、中学校・塾訪問を積極的に行う。
	サタデー学習会・各行事の充実	サタデー学習会や各行事等における保護者への積極的な呼びかけにより、家庭教育における保護者の意識を高める。 ①～⑩	A		
	外部評価の活用と推進の工夫	外部評価(保護者・生徒)アンケートを作成し、明確な資料を提示する。 ①～⑩	A		
		各教科との連携を深め、外部評価の活用を具体化する。 ①～⑩	B		
	入試広報活動の充実	中学校や塾訪問を通して中学生や地域への広報活動を推進する。 ①～⑩	B		
		魅力ある「スクールガイド」や「学校紹介文」を作成し、中学生の本校への興味・関心を高める。 ①～⑩	A		
		学校広報誌「泰山木」を年7回発行し、適切な情報提供を行う。 ①～⑩	A		
茨城県進学フェアや学習塾の説明会に参加し、広報活動に努める。 ①～⑩		B			
図書	図書環境と出版物内容の充実	常時開放と常時閲覧、生徒の調べ学習の援助、良書・新刊図書の紹介。蔵書充実を図る。 ①～⑩ 定期戦「号外」「亀丘時報」、出版委員会『済美』の発行。	B	B	図書環境の充実
教育相談	キャリア・カウンセリングの体制づくり	カウンセリングを通して、生徒、保護者、教員への支援に努める。 ⑤⑥	A	B	キャリアカウンセリングは進路指導部と連携で実施し、各年次のキャリア教育を支援する目的で昨年から実施したが、実際は生徒が主体的にキャリアカウンセリングを受けに来るスタイルとなっており、有効に活用できていない。よって、キャリア教育を補完するキャリアカウンセリングは進路指導部の所管に戻した方がよい。SC後の情報を共有する時間の確保と放課後の時間にSCを受けた生徒のために、SCの実施日を木曜あるいは火曜ではなく平日にしようか。また、午前中にSCを受けた保護者もいるため、月1回は午前中に実施しようか。「教員のスキルアップのための研修」を目的あるいは趣旨を明確にして実施すること。
		生徒・教員対象のキャリアカウンセリングを実施する。 ⑤⑥	C		
	「道徳」の授業のコーディネート	道徳教育事業計画に基づき、「道徳」の授業をサポートする。 ⑤⑥	A		
		ゲスト・ティーチャーを有効活用するとともに、体験学習を通して、豊かな心を育成する。 ⑤⑥	B		
第1年次	基本的な生活習慣の確立	HRを中心に、学校生活の規律を徹底し、規律正しい生活が送れるようにする。 ⑦⑧	A	A	欠席や遅刻等が目立つ生徒も少なく全体としては問題は特にないが、学校生活や友人との関係から上手く適応できていない生徒が何名かいる。担任や家庭との連絡を密にしてい
		個人面談等を通して生徒の生活状況を把握し、個に応じた生活指導を行う。 ⑦⑧	A		
	基礎学力の向上と学習意欲の向上	日々の授業を大切にす姿勢の徹底を図るとともに、学習の記録を通し、一人一人の家庭学習状況を把握する。 ①～⑥	A	B	学校での授業に対する姿勢は概ね良好であると判断できるが、自宅での学習に対する意欲が「やらされている」という意識から抜け出せず、効果が上がっていない。自分のために必要なものという意識改革が一番必要だと考える。
		家庭学習時間の少ない生徒には、主任面談等を行い、学習意欲の喚起を図る。 ①～⑥	B		
		学習意欲や進路意識の高い生徒に向けた勉強会を実施し、上位の学力層の育成を図る。 ①～⑥	A		
		適切な学習課題を設定し、予習復習の大切さを認識させ、家庭学習時間の確保を図る。 ①～⑥	B		
	自己理解の深化と将来像の明確化	進路指導の中で自己理解の深化を図り、将来像を明確にする。 ⑤⑥	B	B	計画に従った進路指導を実施しているが、各種進路行事と生徒の意識向上に上手く連携できていない。それぞれが有機的かつ相乗的な効果があるよう工夫をしていきたい。
		総合的な学習の時間(道徳)やLHRを計画的かつ効果的に進め、よき生き方を模索させる。 ①～⑥	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
第2年次	個に応じた進路指導の徹底	個人面談を通して進路希望や学習状況を把握し、個に応じた進路指導を展開する。 ①～⑥	A	A	授業第一の精神を大切にし、授業のレベルを高レベルに保つ。  年度当初に目標と具体的な学習計画を確認し、良いスタートを切れるようにする。中間層の生徒への指導を手厚く行う。	
		学力に応じた課外授業や補習授業を充実させるとともに、より高い進路目標を徹底させていく。 ①～⑥	A			
	学習スタイルの深化	一人一人の学習状況を把握し、毎日の授業を大切にする姿勢の徹底を図る。 ①～⑥	B	B		
		学習時間の少ない生徒や成績下位層の生徒に対して主任面談を行い、学習意欲の高揚を図る。 ①～⑥	B			
		各層(成績により9段階に分割)毎に対応した進路指導を行い、上位層を始め各層の学力の向上に努める。 ①～⑥	C			
		家庭学習のための課題を設定するとともに、主体的に学習する時間を確保させる。 ①～⑥	B			
	自律ある学校生活の展開	後輩の模範となるべく自覚を促し、学校行事への積極的な参加やHR活動の充実を図る。 ⑦～⑨	A	B		受験勉強を最優先させると共に、規律ある学校生活を送る。  指定校推薦と国公立の推薦入試に対する指導のしかたや体制を、現状に合わせて変えていく必要がある。 受験生として必要な学習量を適切に提示し、生徒の学習習慣を確立させる必要がある。
		保護者と緊密な連携を図り、自己の進路希望の実現に向けて、生活習慣を再構築させる。 ⑦～⑩	B			
第3年次	進路希望の実現を目指した進路指導の徹底	個人面談を計画的に進め、生徒一人ひとりが抱えている課題を把握しながら、最後まで諦めさせない進路指導を展開する。 ①～⑥	A	B		
		毎日の学習状況調査から生徒の実態を把握し、計画的・主体的な学習スタイルの確立を促す。 ①～④	A			
		進路希望や学力層を考慮した課外や個別指導、進路行事を効果的に行い学力向上を支援する。 ①～⑥	B			
		教員間での情報共有に努め、目線あわせを行う。志望校分析会を2回の保護者面談前に実施する。 ⑤⑥	B			
		保護者への進路情報の提供を密に行い、進路希望実現に向け連携を深める。 ⑤⑥	B			
	自律ある学校生活の育成	最終年次としての誇りと責任感を自覚し、学校行事への積極的な参加やHR活動の充実を図る。 ⑦～⑨	A	A	精神的に不安定になる生徒が多く、教育相談部と連携をとって対応していく必要がある。 年度初めに行う面談で、新しく担当する生徒の状況を把握することは重要である。	
		生活習慣の見直しを常に考えさせ、受験期であるからこそその規律ある生活リズムの大切さを意識させる。 ⑦～⑨	B			
		面談や情報交換から、生徒の問題行動や悩みなどの早期発見を心がけ、関係各部と連携し解決を図る。 ⑦～⑨	A			

※評価基準 A:十分達成できた(達成度80%以上) B:概ね達成できた(達成度60～79%) C:やや不十分(達成度40～59%) D:全く不十分(達成度39%以下)